

街の防犯みんなで強化

自前「青パト」、巡回活動

相模原NPO法人

相模原市南区の大野南地区で、自治会や防犯関係団体などをつくるNPO法人の「さがみはら市民交番青パト隊」が26日から、自前の青色回転灯装備車（青パト）によるパトロールをスタートさせた。活動拠点を置くJR町田駅南口はかつて、違法風俗店が密集していた通称「たんぼ」地域。地元では「元の風俗街に後戻りさせない」と、地域ぐるみで防犯強化を目指す。

（狩野 武夫）

同駅南口では、地元住民らでつくる「JR町田駅南口を明るく犯罪のない街にする連絡調整会」が2000年1月に結成。暴力団員による射殺事件が07年4月に起きたのを機に、市民交番「さがみはら安全安心ステーション」（南区上鶴間本町）が設けられ、住民らが毎日交代で詰めている。

連絡調整会の会長で、NPO法人の青パト隊理事長を務める本間俊三さん（68）によると、「これまでも市から青パトを借りてパトロールを定期的に行っているが、さらにパトロールの強化を」と、自前の青パトで活動することを決め、新たにNPOを組織。3月に法人認可を受け、青パトの車両を取得した。

活動拠点の市民交番でこの日、青パト隊の出発式を開催し、住民のほか市、相模原南署などから約50人が出席した。本間理事長は13年ほど前まで、風俗街と呼ばれて大変風紀が乱れ、市や警察と一体となつて浄化に取り組んできた経緯を説明。その上で「この地域を元の風俗街に戻させない」と決意を述べた。

青パトによる巡回活動には、地域の大学生で昨年7月に結成された防犯ボランティア団体の「グリーンシール」が加わる。出発式

で相模女子大2年の小俣瞳さん（19）は、「学生の力でも同乗してもらい、拡声器で防犯の呼び掛けなどを行っていくという。

交番を拠点に週3回、地域パトロールを展開。学生にも同乗してもらい、拡声器で防犯の呼び掛けなどを行っていくという。



大勢の関係者が出席して行われた青パト出発式＝JR町田駅南口の市民交番「さがみはら安全安心ステーション」